



1万7506人が 吉備路を駆け抜けた

そうじゃ吉備路マラソンが2月24日、総社市スポーツセンター周辺を発着点に開催され、過去最多の1万7506人のランナーが早春の吉備路を駆け抜けました。歴史ロマンあふれるコースを舞台にしたこの大会は、中・四国地方で最大、全国第9位の規模のマラソン大会に成長しました。

今大会はフルマラソン、ハーフマラソン、10km、5km、3km、1.5kmと700mのファミリーマラソンの5種目2イベントで開催。ハーフマラソンと10kmは日本陸上競技連盟の公認を取得するなど、より充実した内容となりました。また、ネーミングライツの協賛スポンサーを募集。10kmのコース命名権を取得した大黒天物産株式会社が「新谷仁美記念大黒天物産コース」と名付けました。今回も多くの人々が大会を盛り上げてくれました。招待選手の中村友梨香さん

(天満屋)は、ハーフマラソンのスターターを務め、3kmにも出場しました。昨年のロンドンオリンピック陸上女子1万m第9位で総社市出身の新谷仁美さん(ユニバーサルエンターテインメント)は大会ゲストとして参加。新谷仁美記念大黒天物産コースのスターターと表彰式のプレゼンターを務めました。大会イメージソング「a walk in the life」を歌うゴーストノートはスタート前に大会会場でミニライブを開催。また、メンバーの3人はハーフマラソンと5kmに出走し、沿道の注目を集めました。

イメージソングを歌うゴーストノートの3人



参加者数 全国第9位

ネーミングライツで10kmコース名「新谷仁美記念大黒天物産コース」に

招待選手の中村友梨香さん(写真右)と大会ゲストの新谷仁美さん(写真左)

ご協力ありがとうございました

そうじゃ吉備路マラソンの開催にあたり、準備や運営、沿道警備、給水、駐車場などのボランティア、沿道からの応援、物的な支援など、大会のスムーズな運営や盛り上げにご協力いただき、深く感謝申し上げます。また、交通規制では何かとご迷惑をお掛けしました。ご協力ありがとうございました。



大会会長 片岡聡一